

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	演劇
----	----	----	----

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	有	応募総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	きぎょうくみあい げきだんかぜのこきゅうしゅう 企業組合劇団風の子九州	団体ウェブサイトURL	https://kazenoko-kyushu.com
代表者職・氏名	代表理事 仮屋祐一		
制作団体所在地	〒 814-0002 福岡県福岡市早良区西新5丁目5-13	最寄り駅(バス停)	福岡市営地下鉄空港線西新駅
電話番号	092-841-7889		
ふりがな 公演団体名	げきだんかぜのこきゅうしゅう 劇団風の子九州	団体ウェブサイトURL	https://kazenoko-kyushu.com
代表者職・氏名	代表 おやまじゅん		
公演団体所在地	〒 814-0002 福岡県福岡市早良区西新5-5-13	最寄り駅(バス停)	福岡市営地下鉄空港線西新駅
制作団体 設立年月	1985年 4月		
制作団体組織	役職員 代表理事 仮屋祐一 理事 浅野由美子、理事 川島二郎 理事 中寫 司、監事 矢野ひとみ	団体構成員及び加入条件等	俳優:12名、企画制作部:6名 文芸演出部:1名【合計19名】
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	仮屋祐一
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	鈴木恵美
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	info@kazenoko-kyushu.or.jp		

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>企業組合劇団風の子九州は、1985年東京の劇団風の子から運営独立し「劇団風の子九州班」として福岡市に創立され、その後1993年に法人独立し現在に至る。 児童・青少年演劇の制作と上演・普及活動を行っている。</p> <p>*2003年以降ほぼ毎年、文化庁委託・補助事業に採択実績あり。 *年間500ステージ以上、9万以上の子どもたちに観て頂いた実績あり。</p> <p>【主な受賞歴】 ■2005年 社会保障審議会推薦児童福祉文化財 特別推薦 ■2019年 社会保障審議会推薦児童福祉文化財 児童福祉文化賞受賞 舞台芸術部門</p>			
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>劇団創立の翌年1986年より37年以上の学校公演実績あり</p> <p>【2023年度実績】 小学校公演：「やだ、やだあっかんべ〜！」 53日75ステージ 「なるほ堂ものがたり」 44日70ステージ 他、3演目 20日25ステージ 5演目合計 117日170ステージ</p> <p>【2022年度実績】 小学校公演：「やだ、やだあっかんべ〜！」 64日103ステージ 「なるほ堂ものがたり」 23日41ステージ 他、3演目 28日46ステージ 5演目合計 115日190ステージ</p> <p>【2021年度実績】 小学校公演：「このゆびと〜まれ！」 29日50ステージ 「やだ、やだあっかんべ〜！」 10日15ステージ 他、4演目 19日29ステージ 6演目合計 58日94ステージ</p>			
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>【福岡県】福岡中央特別支援学校、南福岡特別支援学校、福岡県立特別支援学校北九州高等学園、嘉徳特別支援学校 【長崎県】鶴南特別支援学校、大村特別支援学校、川棚特別支援学校、島原特別支援学校 希望ヶ丘高校特別支援学校、諫早東特別支援学校、諫早特別支援学校 【宮崎県】みなみのかぜ支援学校、赤江まつばら支援学校、清武せいりゅう特別支援学校、くろしお支援学校、児湯るびなす支援学校、みやざき中央支援学校 【沖縄県】島尻特別支援学校、宮古特別支援学校 【福島県】大笹生支援学校 【広島県】広島県立呉南特別支援学校 【岡山県】岡山県健康の森学園支援学校</p> <p>ほか公演実績多数</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/HPHBHrVmi3I</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<p>なし</p>	
		<p>PW:</p>	<p>なし</p>	

別添	なし
----	----

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 劇団風の子九州】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	
企画名	空想力は生きる力！「このゆびと～まれ！」公演			
企画のねらい	<p>☆現場の先生方や本作の主人公と同じ小4の子供たちへのインタビュー等を経て制作したオリジナル作品。等身大の子どもたちの本音を代弁し、身近な友達や親子関係を題材にしているので<u>児童が興味をもって鑑賞でき、芸術鑑賞能力の向上を図り、教育的効果が期待できます。</u></p> <p>☆舞台転換も見ものです。中央に廻り舞台を設置し、三面の舞台が場面毎にクルクル回転します。また大海原の場面では廻り舞台が三つに分割され、それぞれ独立して動き出し、あっという間に大海原に浮かぶ大海賊船が登場したり、ジャングルが登場したりします。目の前のスペクタクルな光景は<u>舞台美術としても芸術性に富むものであり、児童が興味を持って鑑賞できます。</u></p> <p>こども達の心が大きく動くことで、物語がこども達自身のものになり、<u>自分を見詰めたり、友達に共感できる豊かな感性を育てたい</u>と企画しました。</p>			
演目概要・演目選択理由	<p>演目概要:タイトル「このゆびと～まれ！」 (あらすじ) ヒロは小学4年生。空想遊び(ごっこあそび)の天才、いつも色々な人物になりきっています。そのためクラスではちょっと浮いた存在。父親は長期入院中で、母親は入院費を稼ぐために残業も多く、ヒロは近所の駄菓子屋のばあちゃん(スエコ)や大工のじいちゃん(銀蔵)に面倒をみてもらっています。ヒロの日課はスエコの飼犬の鉄(テツ)の散歩に出かけること。その散歩はヒロの大好きな空想の時間。あるときは洞窟探検のヒロ隊長、またあるときは大海賊キャプテンヒロに大変身。ある日、クラスで起きた事件をきっかけに、ヒロはクラスで一番頭のいいマモルを空想の世界へ誘います。実はマモルはヒロをバカにしていました。喜ぶヒロと戸惑うマモルは遊びの力を呼び戻す空想珠(くうそうだま)を探しに無限島へ出発することに！過酷な冒険の末、空想球を取り戻した二人に友情が芽生えます。子供たちの本来持っている想像力にエールを送る作品です。</p> <p>演目選択理由:まずは子どもたちに、体育館の半分ほどが舞台空間となるスケールの大きなセットに出会わせ、映像とは違う目の前であつという間に様々な場面に変化する生の舞台セットの醍醐味や、等身大の現代の子どもたちのドラマとしての面白さ・役者の演技を通して、<u>将来を担う子どもたちが演劇に興味や関心を持ち豊かな感性を育む演目</u>であると自負します。</p>			
① 団一プニング	<p><u>プロローグのヒロの空想の場面</u>。映画「インディージョーンズ」風に洞窟の中で敵に追われているヒロと鉄(人間)にまわりつく、<u>コウモリをコスロと一緒に演じてもらいます。</u>先端にコウモリの付いた針金を持ち演じます。せりふはないが、緊張感の必要な場面。でも「だるまさんがころんだ」のような緊張と緩和のあそび感満載の表現です。ただしお客さんに「この場面をちゃんと伝える。」ということ意識して演じるという事も指導します。<u>コウモリは手作りでも良いし、劇団でも用意できます。出演者上限6名。</u></p>			
				
	* やる気マンマンの子どもたち		* コスチュームにもこだわりました。	

児童・生徒の参加又は体験の形態

②回ディング

子どもたちと出演者でテーマソング「このゆびと〜まれ！」の歌をうたいながら踊ってもらいます。ドラマ観劇後の昂揚感にふさわしい楽しく元気な歌と踊りです。可能であれば、各自海賊の衣装や帽子を製作し着けてもらいます。出演者上限40名



※最後に記念撮影、ポーズを決めて！

児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	40名以下			
		鑑賞人数目安	500名以下			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	本公演演目：「このゆびと〜まれ！」 作・演出：あさのゆみこ 音楽・効果：曲尾友克 美術：山本佐助、小峯三奈					公演時間 75 分
出演者	高山洋輝、矢野武徳、岩永浩子、山本佐助、おやまじゅん、小池勇治、市川澄玲、三岳純子 (変更になる場合あり)					
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	<p>■作・演出：あさのゆみこ 1985年より俳優として活動開始、1989年より脚本執筆を始める。これまでに11作品の脚本・脚色を手掛ける。2002年より演出も手掛ける。これまでに13の演出作品あり。劇団風の子九州専属の演出家である。</p> <p>■メインキャスト：山本佐助 1988年より俳優として活動開始、現在までに14作品に出演、舞台監督も務める。1995年より美術担当も兼任、さらに2003年からは作・脚本も手掛ける。</p> <p>■音楽・効果：曲尾友克 多くの劇団から厚い信頼を得ている音楽家である。1995年より劇団風の子九州作品の音楽・効果を担当、これまでに20作品に関わる。</p>					
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者： 8 名	スタッフ： 1 名	運搬		・マイクロバス 車長 6.99m ・ワゴン車 車長 5.38m	台数： 2 台
本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		3	時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8:00	8:00～11:00	13:30～14:45	なし	15:30～17:30	
	↑ 仕込み後、出演児童とのリハーサルが入ります。(11:30～12:15)					
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。						

本公演 実施可能日数目安 <small>※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</small>	6月	7月	8月	9月
	0日	0日	0日	5日
	10月	11月	12月	1月
	17日	0日	8日	0日
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計



舞台全景



駄菓子屋のペット犬・鉄



ヒロの部屋のもぐらたたき



ダイジャジャーに襲われるヒロ



海賊船で宝を探しに！



児童出演場面



ラスボス・パバーリンに立ち向かうマモル

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし		
【公演団体名 劇団風の子九州 】			
ワークショップのねらい	<p>①子どもたちは思春期の入口にさしかかる頃、自我の目覚めと共に他者からの目を意識し始めます。そのことにより人前に立つ、または人前で話す、ましてや人前で演じるということに相当なプレッシャーを感じる子どももいます。そこで演劇とは「ごっこ遊び」や「まねっこあそび」の延長であり、今回の舞台表現は「<u>遊びとしてみんなで楽しんで演じてほしい</u>」と伝えるためのワークを心がけます。</p> <p>②学校側としては、出演出来る児童を選抜するのが難しく、クラス全員で取り組みたいとの要望があります。そこで、ワークショップとその後の本番に向けての練習をクラス一丸で取り組んでもらい、<u>クラスの団結という協調性を育む教育的効果を目指してもらいます。</u></p> <p>*<u>事前に</u>、実際の子どもたち出演場面のDVDや、歌ってもらうテーマソングの楽譜やCD音源を送付して、出演場面のイメージを持ってもらったり、テーマソングを聞いてもらったり練習してもらい、ワークや本番に向けての<u>ワクワク感を醸成してもらいます。</u> <u>ワーク当日は</u>、最後に、お互いの練習の成果を発表し合い、出演する際の慣れや観てもらおう感覚を自覚してもらい、<u>本番に向けて更なる精進を促します。</u></p>		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	40名以下
ワークショップ実施形態及び内容	<p>※ 最初の<u>劇団紹介後</u>、子どもたちの緊張を取り除く意味合いで、<u>アイスブレイク的な遊びのワークショップ</u>を行います。その後、話の大筋と出演シーンのイメージを共有してもらうために、<u>紙芝居形式でストーリーを説明</u>します。その後、<u>プロローグチームとエンディングチームに別れて練習</u>をします。</p> <p>☆ プロローグの場面。洞窟の中、こうもりチームは上手(かみて)チーム、下手(しもて)チームに分かれ、リーダーの俳優を中心に演技を創っていきます。息のあった表現を追及してもらい、<u>協調性を高めてもらいたいと考えます。</u></p> <p>☆ エンディングの場面。ダンスチームはテーマソングの歌詞に沿って、当て振りの覚えやすい振付を練習し、みんなで思いきり<u>表現する楽しみを体験してもらいます。</u></p> <p>※ワークショップに参加できないクラスにはテーマソングの歌のCDを配布し、本番までに覚えてもらい、<u>ラストシーンでは全校児童で合唱</u>してもらいます。</p> <p>☆ 発表の時間は他のグループの表現をお互い見合い、自分たちの表現の振り返りをしてもらい、<u>「観客に伝える表現」というものを意識</u>してもらいます。このことにより友達の違った一面を感じ、自分の新たな可能性を発見してもらい、自他共に認め合う事で<u>コミュニケーション能力の育成を図りたいと考えます。</u></p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>特別支援学校では、各子どもたちの被支援の状況を先生方と綿密に打合せを行い、表現方法の可能性を探っていきます。例としては、ベットの子どもさんに鳴り物を持ってリズムをとってもらい、車椅子の子どもさんは先生が一人ずつ付いて車椅子ダンスを披露したことがあります。</p> <p>*コロナ禍での本事業において、学校(教育委員会)側から子どもたちが舞台上で歌うことの自粛を求められたケースが数校ありました。そこで、テーマソングの歌詞を手話で表現してもらい、本事業のねらいである共演での舞台芸術とのふれあいを保証できたらと考えます。</p>		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

本事業への応募理由

【公演団体名 劇団風の子九州】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢</p> <p>* 少子化や経済格差の影響で激減しつつある学校における鑑賞行事の起爆剤として本事業の手を借り、<u>子どもたちの芸術鑑賞能力の向上を図ります。</u></p> <p>* 効率のよい移動の巡回スケジュールを組み、参加する俳優やスタッフのコンディションに配慮し、疲れを軽減し、<u>作品の質を保ちます。</u></p> <p>* 採択地の各市町村と連絡を取り合い、<u>事業のアピールと充実を訴えます。</u></p> <p>* 子どもたちにワクワクドキドキの鑑賞と体験を味わってもらい、芸術に関心を持つ子どもたちを育て、<u>将来の観客や芸術家の育成を目指します。</u></p> <p>* 文化庁の事業なので、マスコミにも積極的にアピールして、教育関係だけでなく一般社会にも、児童演劇ジャンルと児童劇団の可視化を目指し、<u>子どもたちこそ芸術が必要という認識を拡げること</u>に努めます。</p> <p>本事業は、子どもの健全な成長を願い、芸術に身近に触れてほしいという<u>私たちの思いと強く通じるので申請します。</u></p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <p>* 採択決定後、新学期のなるべく早い時期に、採択校の担当者に事業の説明を含めたあいさつの連絡を入れ、映像や音源等の資料を送付し、<u>担当教諭と子どもたちが本事業をイメージしやすいように心がけます。</u></p> <p>* ワークショップ・リハーサル等は、楽しい雰囲気を作りながらも、子どもたちにも限られた時間の中で集中の大切さと、出演することの緊張感と責任感を意識させながらも、<u>団結力を高めコミュニケーション力の向上を目指します。</u></p> <p>* 終演後は、出演した子どもたちと一緒に舞台上で記念撮影して、お互いの労をねぎらいます。</p> <p>【特別な配慮が必要な児童について】 事前に必ず実施校の意向を確認します。 光や大きな音、いつもと違う場所(舞台装置がある体育館)が苦手な児童がいる場合 舞台装置が整ったところ、会場に一度入ってもらい、どの程度の光・音であるか、いつもとどのように違っているか等確認してもらいます。 事前に知ることで大丈夫な場合も多々あります。 難しい場合はご担当の先生方と対応を検討します。</p> <p>これまでに難聴の児童がいらして、事前に脚本がほしいと要望されたことがあります。 脚本と上演DVDを送付し、先生よりあらすじ等を説明して頂きました。 また多動な児童の場合、他の児童と一緒に座って観ることは出来なくても、体育館の跳び箱やカーテンの影からみて頂いたこともあります。 出来るだけ生の舞台を観て頂けるよう、先生方のご協力のもと創意工夫をこらしています。</p>
--	--